

なぜ私は、美しいとも強いとも脅威とも言われ、人々が私に異常な「告白」をするのか？

Greatchain

November 30, 2024

もちろんこれは、思い上がって言っているのではない。ただ事実としてそういうことが起こっている。かなり多くの人々が、私の顔を見たことも声を聞いたこともないのに、そういう感情を告白している。また私に対して、そのような異常な感情を初めて覚えたとも言っている。これはおそらく、最近よくエネルギーとか波長とか言われる宇宙間での、人間同士の強い感情の同調が、密かに起こっているためではなからうか？

私はこれを善の為にも悪の為にも利用できるが、夢にも間違ふことのないよう強い警告を受けている。

これは私がこれまでに書いた、ちょっとした自伝のようなものに関係がある。私はごく幼少のころに、無限に美しいものと無限に悲しいものという二つのものを体験し、それが原点として現在にまで及んでいる。これは私が何か天才少年みたいで、言うのも恥ずかしいが、わかりやすく自己分析すれば、そんな言い方しかすることができない。そしてこれが、年齢とともにますます強烈なものになったと言うことができる。

唐突だが、最近ユーチューブで、「コンドルは飛ぶ」El Condor Pasa（とそれに類するいくつかの曲）が、独特の地方の人々によって、独特の自然環境の中で、盛んに演奏されている。これは自己中心かもしれないが、これもやはり、私と同じ、「無限に美しく無限に悲しい」波長やエネルギーをもつ人々が、私のために、不思議な恋愛のテレパシーによって、やってくれているとしか思えない。おそらくそれは当たっている。これを宇宙的なシンクロニシティと呼ぶことができる。他に美しい曲はいくらでもあるのに、それが起こっている。

もう一つ不思議な夢の話をしたい。だいぶ前にこのブログに書いたことだが、一本の川に沿って段差ができていて、水の流れる側と乾いた側に別れている。それが途中で分岐しているのだが、その先の状態が何かに覆われ、わからなくなっている、そして全山が紅葉している、という夢だった。今まさに時期的に、その通りなこと——地球上の人間の弁別の始まりと解釈できる——が起ころうとしている。

恐縮だが、私はもう一つ不思議な夢を見た。これはどこにも書いた覚えはないが、ある人に話した。それはコンドルではなく、コンドルに似た白頭鷲の夢である。(これらともに巨大な猛禽であることと、今から述べる「悲しみ」によって繋がっている。)

私がどこかに腰かけて坐っていると、そのすぐ近くに、座高が私と同じくらいの大きな、嘴の黄色い白頭鷲が翼を畳んで立っていた。そして明らかに私の方へ近寄ろうとしている。私はこの猛禽の肩に手を掛けようと思ったが、万一、その嘴で突かれたら、ひとたまりもないと思って躊躇していた。しかしそれでもこちらへ寄ろうとするので、思い切って肩を抱くと、この鳥は何かを訴えようとしていることがわかって。驚いたことにそれは、すすり泣きだった。彼はただ悲しみに打ちひしがれ泣いていた。

これは思いもよらぬ夢で、いわゆる意味のある夢には違いない。しかしどんな意味か？ 白頭鷲 (bald eagle) が、アメリカという巨大な帝国のシンボルであることは誰でも知っているだろう。ウィキペディアによれば、これを米国章のデザインとして定めるときに、その委員の中にフリーメイソンがかなりいたようである。アメリカという国家が、このところますます衰退してわかってきたことは、彼らは、人を殺さねば生きていけない悲しい国家だったことである。「アメリカ例外主義」といわれるものが、そういうものである。彼らはそれを誇り、アメリカだけは犯罪が許される例外的な国家だと言ってきた。しかし、それは自国をも (日本のような) 他国をも巧みに欺くための、本末転倒の虚構であった。人を殺さねば生きていけない悲しい国——これが白頭鷲のすすり泣きの意味だったと私は解釈している。

これは彼らの悪としての見方に、別の方向を与えるものでもある。彼らの悪は「純粹悪」 pure evil とも言われ、改宗できない宗教のようなものだった。これによって彼らを正当化することはできないが、彼らの没落の筋道を、同情をもって思いやることはできる。いずれにせよ我々は、単なる憎しみというものを卒業しなければならない。その代わりに我々は、人間の尊厳、国家の尊厳、人々のグループの尊厳 (dignity/sovereignty) というものを取り入れなければならない。そうしなければ生きていけない。これをよく知っているのはブーチン大統領である。

アメリカ帝国の人々は、自分たち少数者以外の者たちを、人間ではないものとして排除しなければならなかった。彼らが正しいのは、彼らの尊厳によるものでなく、少数者 (エリート) 以外の人間が、仲間外れの、資格のない人間だからである。それ以外に、彼らが正しさを主張する理由も根拠もない。

「選ばれた者」としての私を支持してくれる人々があるとしたら、それは我々が個人としての、仲間としての、国家としての尊厳を守り抜く者たちだからである。それは誰かの権力や特権によって生ずるものではない。神の愛というものはそういうものではない。